

倉敷市真備町にて、豪雨災害を想定した 「LINE 版防災チャットボット『SOCDA(ソクダ)』」を活用した訓練を実施

AI 防災協議会(理事長:江口 清貴)は、2020年6月2日、国土交通省中国地方整備局、岡山県、倉敷市と共同で、「LINE を活用した高梁川・小田川防災訓練」を実施しました。

この訓練は、平成30年7月豪雨を経験した方々の声として『避難時に被災状況の把握に苦慮した』という声が多く寄せられたことから、出水期に備え、大雨時の被災状況等を地域全体で共有することを目的として開催されました。

SOCDA*を実装した LINE 公式アカウントを用いた地域住民参加型の訓練で、大雨により高梁川及び小田川の水位が上昇し、氾濫危険水位を超過していくという条件下で、被災状況や地域の状況を LINE で投稿し、SOCDAによりマッピングを行い、地域全体で状況を共有しました。

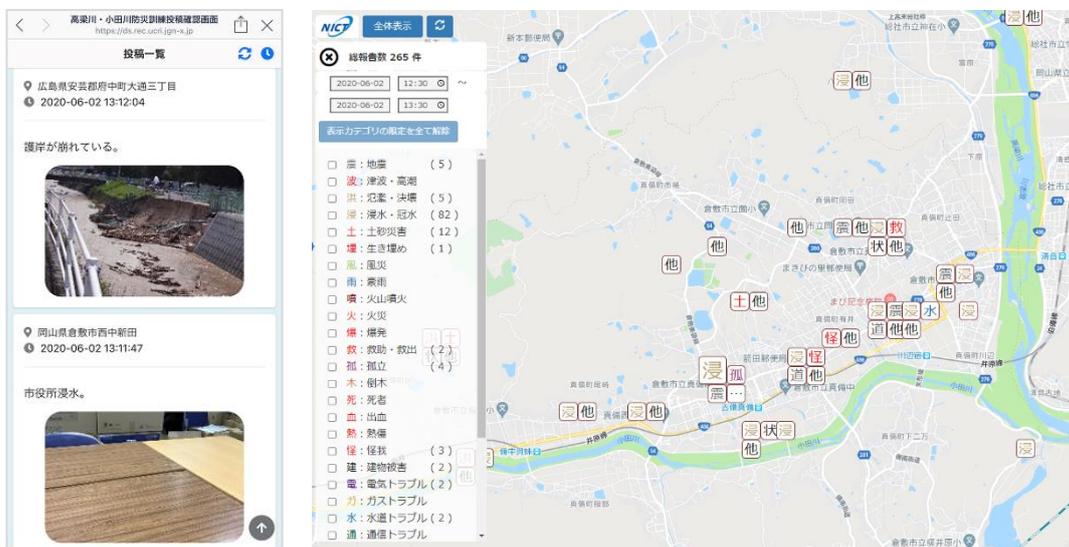
地域住民含む398名の参加と、約270件の投稿があり、県下複数の自治体にまたがる広域の情報収集を行うことができました。また、国・県・市が連携し、陸間の全閉準備に関する行政間の情報共有を、「真備情報@行政(国交省・岡山県・倉敷市)」LINE 公式アカウントにおいても発信しました。

本訓練を受けて、より効率的な情報共有のための改善点、要救護者の対応などについて話し合われました。

AI 防災協議会では、今回の訓練の結果を検証した上で、社会実装の実現に向け SOCDA のブラッシュアップを図ってまいります。



訓練の様子



SOCDA における投稿画面とマップ

* SOCDA:「対話型災害情報流通基盤」。通称 SOCDA = SOCial-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management

国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援するチャットボット。

NIED、NICT、WNI が、LINE の協力を得て、研究開発を実施している。

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」のテーマI「避難・緊急活動支援統合システムの研究開発」(研究責任者:NIED 臼田裕一郎)のサブテーマ1-3「対話型災害情報流通基盤の研究開発」に位置づくもの。